

ダラス

2024年9月、ダラス補習校の元生徒会会長で、アメリカの大学で医学部進学を目指す現役大学生2名をパネリストに迎え、パネルディスカッションを実施した。身近な先輩の話を直接聞ける貴重な機会となった。

この企画は国語総合の単元学習と連携し、授業内で役割分担や進行、質問内容を話し合い、生徒が主体となって運営した。

当日はオンラインで約1時間、大学での学びや普段の生活について紹介してもらい、在校生は進路を考えるうえで多くの示唆を得ることができた。



オンラインパネルディスカッション風景

国語総合＋進路指導コラボ 第4回パネルディスカッション

在校生からは、「忙しい中で睡眠時間はどのくらいだったのですか」「課外活動と勉強をどう両立していましたか」「補習校と現地校、受験をどのように工夫して乗り越えたのですか」「補習校で大変だったことはありますか」など、身近な先輩だからこそ聞ける具体的な質問が多く寄せられた。パネリストの高校時代の経験や当時の工夫が語られ、生徒たちの関心を強く引きつけた。

実施後の振り返りでは、「何事も量より質を大切に」という先輩からのメッセージが特に心に残ったという声が多かった。限られた時間の中で最大限の成果を生む姿勢は、在校生にとって大きな励みとなり、今後の学習への意識向上にもつながった。